

香川県における農業・農村高齢化の現状と再編方向

松浦寿・森充隆・河田光男

香川県農業の担い手の実態を、統計的に明らかにし、「担い手」の面から見た将来の香川県農業のあり方を検討した。

1. コーホートモデル、マルコフモデルを用いて、将来の担い手の動向予測を試みた結果、若年層の農業離れによる農業労働力の高齢化、農業労働力不足等により、家族経営の行き詰まりが予測された。

2. 主成分分析により、「担い手」の側面を重視しながら、総合的な農業地帯区分を行い「農業の担い手の高齢化による労働力不足」の状況を地帯別に明らかにし、再編方向について検討を行った。

その結果、第Iグループ(専業農業地帯)のように農業地域であり、地域内に複合経営等の優秀な経営が数多く存在する地域にあっては、既存の家族経営の維持発展により将来性を期待できるであろう。一方、第IIグループ(兼業農業地帯)、第IIIグループ(都市化地帯)のような兼業農業、稲単作地帯であり、担い手の少ない地域については、在宅離農者や女性の農業活躍場面の創出が不可欠である。また、第IVグループ(過疎化地帯)のように農業後退地域であり、担い手の核となる経営のいない地域にあっては、観光資源の開発等柔軟な発想による事業の導入等、地域の実態に応じた農業生産システムの構築による新たな担い手の確保といった有効な処方箋の作成が必要である。